

# インパクトレポート

日本財団助成事業

2023年5月1日-2024年3月31日

協働:根浜MIND



# インパクトレポート



## イントロダクション:

**Atlantic Pacific Japan (以下APJ)**のビジョンは、全ての人が安全な環境で海を楽しみ、海及び海洋生物の保護について学ぶことです。釜石は東日本大震災の被害を受け、それ以来復興に取り組んできましたが、ビーチ利用客は減少し、若者は海から離れた街中で過ごすようになりました。そして人々は、釜石を離れ内陸の大きい街々へ移って行きます。地域の若者の海とのつながりは小さくなり、地域の海に関連する産業や伝統が衰退しています。

**APJは、根浜MINDをはじめとする地域の団体と協力して、人々の釜石の海とのつながりを回復することを目指しています。**1年間を通してAPJは、釜石市内だけでなく、日本国内、そしてオンラインでも、楽しく興味深い教育プログラムを実施してきました。プログラムを通して、釜石の沿岸地域の復興に貢献すると共に、人々の海に対する自信を育み、海洋保護に対する興味関心を喚起します。本事業の最終目標は、根浜海岸にシーセンターを設立し、通年のアクティビティを通して、海岸、海、そして地域全体の復興を助けることです。

### 事業成果

日本財団の助成をいただき、今年度もAPJは価値あるプログラムを実施しました。APJは海辺で安全に過ごす方法や環境を保護する方法に対して、釜石、日本国内、そしてさらに広い世界に住む沢山の若者の関心を高めました。



# インパクトレポート

## APJは今年度のプログラムで:

- ・ グローバルリーダーズサミット、APクラブプログラム、オーシャンリバイバルプログラムを通して、836名の若者と活動。
- ・ 2023年7月29日-8月4日:3名の釜石からの参加者を含む、22名の中高校生(中学1年生-高校3年生)を対象にグローバルリーダーズサミットを開催。
- ・ 5回のフォローアップセッション(対面、オンライン)を開催。サミットに参加したアンバサダーがサミットで設定したチャレンジの実施状況を確認。
- ・ サミットに参加したアンバサダーが所属する学校を4校訪問し、海の安全や海洋教育についてのセッションを200名を超える生徒に提供。
- ・ サミットに参加した参加者が、釜石を再び訪れ自分たちのプロジェクトを遂行するためのサポートを提供。2024年3月に、東日本大震災の追悼イベントをサポートするために、5名の生徒が釜石を訪れ、地域団体である根浜MINDと交流。参加者からは、92%の高い満足度を得た。
- ・ プログラム参加者及び保護者から、プログラムに対するフィードバックを収集し、必要に応じて、建設的なフィードバックに対応。
- ・ 根浜湾のビーチの利用がだんだんと増え続けているという地元住民の反応。
- ・ 地域コミュニティが使用・実験することができるプレシャスプラスチック(プラスチックリサイクル)の機械を4台準備。
- ・ 釜石市内の小学校(1校)、中学校(3校)、そして釜石高校の授業時間内でAPクラブプログラムの実施。
- ・ 釜石高校のスーパーサイエンスプログラムの取り組みの一環として、UWC Atlantic との協働プロジェクト、オーシャンリバイバルプロジェクトを実施。
- ・ 釜石高校との関係の強化と、来年度以降も日本財団助成事業外として、APJとオーシャンリバイバルプログラムを継続する合意を得た。
- ・ 教育委員会との関係の強化。また、それにより、来年度から釜石商工高等学校のカリキュラム内でのプログラム実施の合意を得た。
- ・ 根浜海岸で活動する地域団体や釜石市との関係の強化と、シーセンターデザイン案への組み込み。
- ・ APJの活動を拡大させるためのスタートとして、大船渡で海でのレスキューに関するAPクラブプログラムを実施。
- ・ 国内10の学校や大学を訪問。これらの教育機関は、釜石で実施するAPJのコースにそれぞれの学生を派遣することに興味を示した。これにより、APJの釜石での活動を持続可能にすることが見込まれる。
- ・ 夏のプログラム中には釜石の地域の方を臨時雇用し、より地域に密着してプロジェクトを成長させた。

# インパクトレポート



## グローバルリーダーズサミット:

2023年7月31日-8月4日



2023年から新しく始めたグローバルリーダーズサミットには、22名の中高校生が参加してくれました。参加者は全国からの参加者（東京、福岡、宮城、岩手（釜石）、大阪、愛知、京都）に加え、海外（イギリス、アメリカ、台湾）からの参加もありました。参加者の国籍も、イギリス、アメリカ、台湾などと多様な参加者が集まりました。参加者と保護者からはプログラムに対して非常に素晴らしいフィードバック（98%の満足度）をいただきました。

このプログラムは、釜石とAtlantic Pacific を海洋安全とライフセービング、そして海洋環境についての教育におけるリーダーとして位置付けることを目的に設計されました。それぞれの学校を通しての選考を合格して選ばれた、各学校から1-2名のアンバサダーに加え、直接の応募プロセスに合格した参加者が参加しました。

このプログラムでは、専門的な知識をもつインストラクターからライフセービングのスキルについて学んだり、他のアンバサダーや参加者たち、専門家を含め近年の海に関わる問題について議論し、最後にはそれぞれがより良い地球を作るためのマニフェストを作成しました。サミット後には、それぞれ学校内外でそのマニフェストを促進・実行し、海での安全や海洋環境について周りに発信することを約束しました。



# インパクトレポート



サーチ&レスキュー: ライフセービングスキル: ボート操縦

セイリング



漁業



水泳



サーチ&レスキュー: 海で使えるスキル: ロープの結び方: 潮の満ち引きと天候



震災について



心理的応急処置



日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

海と日本 PROJECT

根浜 MIND

ATLANTIC PACIFIC

オーシャンリバイバル: 海にあるプラスチックの問題について

# インパクトレポート

サーチ&レスキュー：海で使える  
スキル：ロープの結び方：潮の満ち引きと天候



MAKING NEW FRIENDS



応急処置

プレシャスプラスチック：プラスチックをライフセービング道具に変換する

# インパクトレポート



## グローバルリーダーズサミットでのマニフェスト:

すべてのアンバサダーは、この夏に作成したマニフェストを遵守することを約束し、私たちは定期的にメールやなどで、大学や組織でどのようにマニフェストを推進し、統合しているか最新情報を連絡しました。これは学校や大学がSDGs13と14を推進する絶好の機会であり、アンバサダーとしてサミットに参加した生徒の大学入学願書や履歴書に記載するのにとても良い活動となりました。

プラスチックの使用を減らし、自然素材でできた再利用可能なものを使う努力を増やすという全体的な取り組みがありました。最も重要な要素は、プラスチックが環境に与える影響について学び、それを地域社会に広めることでした。

減らす	増やす
ペットボトルとプラスチックストロー	補充できる水筒の利用
プラスチックの歯ブラシ	エコバッグの利用
お手拭き	プラスチックの代わりとなる自然素材の利用(木製歯ブラシなど)
お菓子などの個包装の製品	
自動販売機の利用	

# 日本 インパクトレポート 埼玉

SPAIN

フィードバック：  
東京

コミュニティー、そしてスタッフがとても親切だったことが大好きでした。サミットでのアクティビティはどれも唯一無二で、興味を惹きつけられるものでした。そして、セッションでは様々なインストラクターが異なる内容について教えてくれたことも良かったです。  
(参加者からの感想)

参加者、スタッフ、地域の方々が全員とても親切でフレンドリーでした。授業はどれも非常に心を動かされる、力強い内容でした。ライフセービングと震災についてなどをはじめとするサミットでのセッションを通して、このプログラムが私にとって最も価値のある忘れられない経験となりました。  
(参加者からの感想)

台湾

京都

8県から 釜石(岩手)

大阪

愛知

22名の参加者

英国

明らかにこのプログラムは娘にとって転機をもたらす経験となりました。この旅を通じて、娘は、自分自身について、また周りとのコミュニケーションの重要性を経験からたくさん学ぶことができました。サミットでのセッションの中で、娘にとって最もインパクトがあったのは自然災害の話題で、津波の被害について直接聞いたことは、感情的に大きな影響のあるものでした。イギリスでは、異常気象や地震などの災害はありません。  
(保護者からの感想)

"My daughter has been empowered by her trip and all that she has learned and is keen to get more involved in Sea search and rescue. She has decided that she will use the inspirational rebuilding of Kamaishi Bay in a presentation she is giving on building communities."  
(Parent Testimonial)

4カ国から

宮城

素晴らしい魔法の時間だった。あなたが提供してくれた機会にとっても感謝しています。  
(パートナー校からのフィードバック Eddy Jones 名古屋インターナショナルスクール)

福岡

台湾

17名の日本(在住)からの参加者

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT

一般社団法人 根浜 MIND

ATLANTIC PACIFIC



# インパクトレポート



## GLSのフォローアップ:

GLSの生徒たちと連絡を取り合いながら、APJは2023年11月に再び日本を訪れ、名古屋インターナショナルスクール、文京学院大学、UWC ISAK、横浜インターナショナルスクールからキャンプに参加した生徒たちに会いました。ここで学生たちは、自分たちのマニフェストを仲間に発表し、プラスチックの消費を減らすという約束を守ってきたことを共有してくれました。

APJは、GLSからの参加者とともに、海の安全と海洋意識について各学校でプレゼンテーションを行いました。4校合わせて200人以上の生徒が参加しました。



# インパクトレポート



The flyer for the AP CLUB program features a yellow and blue color scheme. At the top, it displays the logos for '海と日本 THE NIPPON FOUNDATION' and 'ATLANTIC PACIFIC'. The main title 'JOIN AP CLUB' is prominently displayed. Below the title, a question asks if participants want to practice English with international visitors, learn important life skills, or have fun. A paragraph explains that the club is a fun and safe place to learn English, supported by translation, and that participants receive a certificate of achievement at the end of each session. Three circular illustrations depict a child sailing, a child fishing, and a child in a life vest. The bottom section is divided into 'DETAILS' and 'MORE INFO', with the latter containing a QR code.

## セーリング教室:

2024年7月29日:12名

2024年8月5日:11名

## ライフセービング教室:

2024年7月29日:12名

2024年7月30日:9名

2024年8月5日:11名

## 漁業体験:

2024年7月29日:12名

2024年8月5日:11名

## 海洋認識と海の安全教室:

2024年7月29日:12名

2024年7月30日:17名

2024年8月5日:11名

## APクラブプログラム:

APJは釜石のパートナー団体と緊密に連携し、セーリング、ライフセービングスキル、海洋認識/海の安全、漁業など、海に焦点をあてたインタラクティブで楽しいアクティビティを提供するとともに、UWC Atlantic の学生と地元の釜石の学校と協力し、オンライン交流プログラムを継続しました。

APクラブプログラムは根浜海岸で実施され、釜石に住む子どもたちとその家族を対象に、海の安全、海洋プラスチック汚染、海洋環境に関する重要なメッセージを伝えるとともに、海洋産業で活躍できる主な職業を紹介しました

7月29日と8月5日には、釜石で地元の若者を対象としたセッションを開催し、12歳から16歳の人々が参加しました。8月5日には、根浜湾オープンウォータースイムを中心としたファミリーデーに参加し、ライフセービングと海洋意識のセッションに幼児から10代までの人々が参加しました。

### APクラブアウトリーチ:

APクラブプログラムは釜石市と大船渡市(隣町)学童でも実施され、APクラブのマスコットキャラクターである「いるばん」「まなみ」「あかくん」を使って、海の安全と海洋認識を教えるセッションを行いました。私たちは釜石と大船渡の2つの学童を訪問し、102名の小学生と関わりました。

鶴住居学童:2024年7月31日:48名

大船渡学童:2024年8月7日:54名

合計:102名

# インパクトレポート



## APクラブアウトリーチ:

APプログラムは、6歳から18歳までの174人の生徒を対象に、小学校、中学校、高校で7回のオンラインセッションを実施し、APの海の安全教育について説明しました。これらは各校のカリキュラムの一環として実施されました。

唐丹中学校 2023年10月13日:30名

釜石高校 :2023年10月14日 15名

栗林小学校:2023年11月6日 24名

釜石東中学校:2023年11月20日 32名

甲子中学校:2023年11月30日 18名

釜石東中:2024年1月26日 31名

甲子中学校:2024年1月31日 24名



# インパクトレポート



## オーシャンリバイバル交流プログラム:

2023年、新たに「オーシャンリバイバル交流プログラム」と題されたこのプログラムは、2022年度の「プレシャス・プラスチック・プログラム」を発展させたものです。このプログラムは2つに分かれており、1つは釜石の生徒とウェールズにあるパートナー校(UWC Atlantic)の生徒がオンライン上で話し、海洋プラスチックを削減する方法について意見を交換しました

UWCアトランティックの生徒(24名)と釜石高校の生徒(15名)は、このプログラム期間中、オンラインで3回ミーティングを行い、それぞれのグループプロジェクトの展開についてプレゼンテーションと最新情報を発表しました。

釜石高校:2023年10月14日

釜石高校:2024年1月27日

釜石高校:2024年3月2日



Atlantic Pacific  
Ocean Revival  
Project



# インパクトレポート



**Atlantic Pacific  
Ocean Revival  
Project**

## 成果:

この交流プログラムは大成功を収め、生徒たちはプラスチックとそれが環境に与える影響について独自のプロジェクトを展開しています。

UWCアトランティックでは、学生が環境中のプラスチックを回収し、人命救助のための道具に変える方法を開発しています。現在は、回収したプラスチックでサングラスを製造する実験を行っています。

釜石高校では、生徒たちはプラスチックが食物連鎖、ひいては人間の健康にどのような影響を与えているかに注目しています。現在、地元の川や川の魚にプラスチックが付着していないか、水中や魚の中にプラスチックが付着していないかを検査しているところです。

# インパクトレポート



プログラムの2つ目の要素は、釜石市内の小・中・高等学校を対象に海洋再生プロジェクトと私たちのプレシャス・プラスチック・マシーンを紹介し、釜石高校とUWCアトランティックとのオンラインプログラムから生まれたアイデアを他の地域の生徒たちと共有し、マシーンをを使って実験してもらうことでした。

UWCアトランティックの学生たちは、朝5時半に起床し、釜石市内の5校7グループ181名の生徒たちに、プラスチックの問題と海洋再生プログラムについてプレゼンテーションを行いました。その中には、釜石高校の生徒7名も含まれており、このオーシャンリバイバルプログラムの一環として、プレシャスプラスチックの機械を使用することができました。

釜石高校 2024年8月1日:7名

唐丹中学校 2023年10月13日 30名

釜石高校 釜石高校:2023年10月14日 15名

栗林小学校:2023年11月6日 24名

釜石東中学校:2023年11月20日 32名

甲子中学校:2023年11月30日 18名

釜石東中:2024年1月26日 31名

甲子中学校:2024年1月31日 24名



# インパクトレポート



## これから:

今年、アトランティック・パシフィック・ジャパンは、目標を上回り、保護者、参加者、パートナー団体からこれまでで最高のフィードバックを受けました。

アトランティック・パシフィック・ジャパンは、日本財団の海と日本プロジェクトからの5年間の助成が終了する今、根浜湾での活動の持続可能性を確保しなければならないです。アトランティック・パシフィック・ジャパンは、釜石市の根浜海岸に海難救助と安全のためのセンターを作るというビジョンを持っています。

溺水による怪我や死亡のリスクを減らすため、地域、日本全国、そして海外の子供と大人に海の安全と環境に関する教育を提供する。

プレシラスプラスチックプログラムを通じて、海洋汚染について学ぶ場を提供する。

海水浴、セーリング、漁業など、シーセンターでその他のアクティビティを提供することで、主要な関係者が活動できるスペースを提供する。

国内外の学生が海の安全、釜石、災害復興について学ぶために訪れるスペースを提供する。

海水浴場利用者の安全を確保するため、ハイシーズンには地元の人々による救命艇サービスを根浜海岸に提供する。

APインターナショナルの戦略に従って、日本および地域市場に供給する特注のAP救命艇を製造する。

水難事故が発生した場合、どの地域にも派遣できるよう、搜索救助技術について地元、国内、海外のAPクルーを訓練する。

地元の人々や観光客が地元の環境を楽しめるよう、カフェ、ショップ、小売スペースを提供する。

釜石を海上安全訓練と災害対応の拠点として確立し、地元住民にボート製造、海難救助、海上安全に関する技術を提供する。

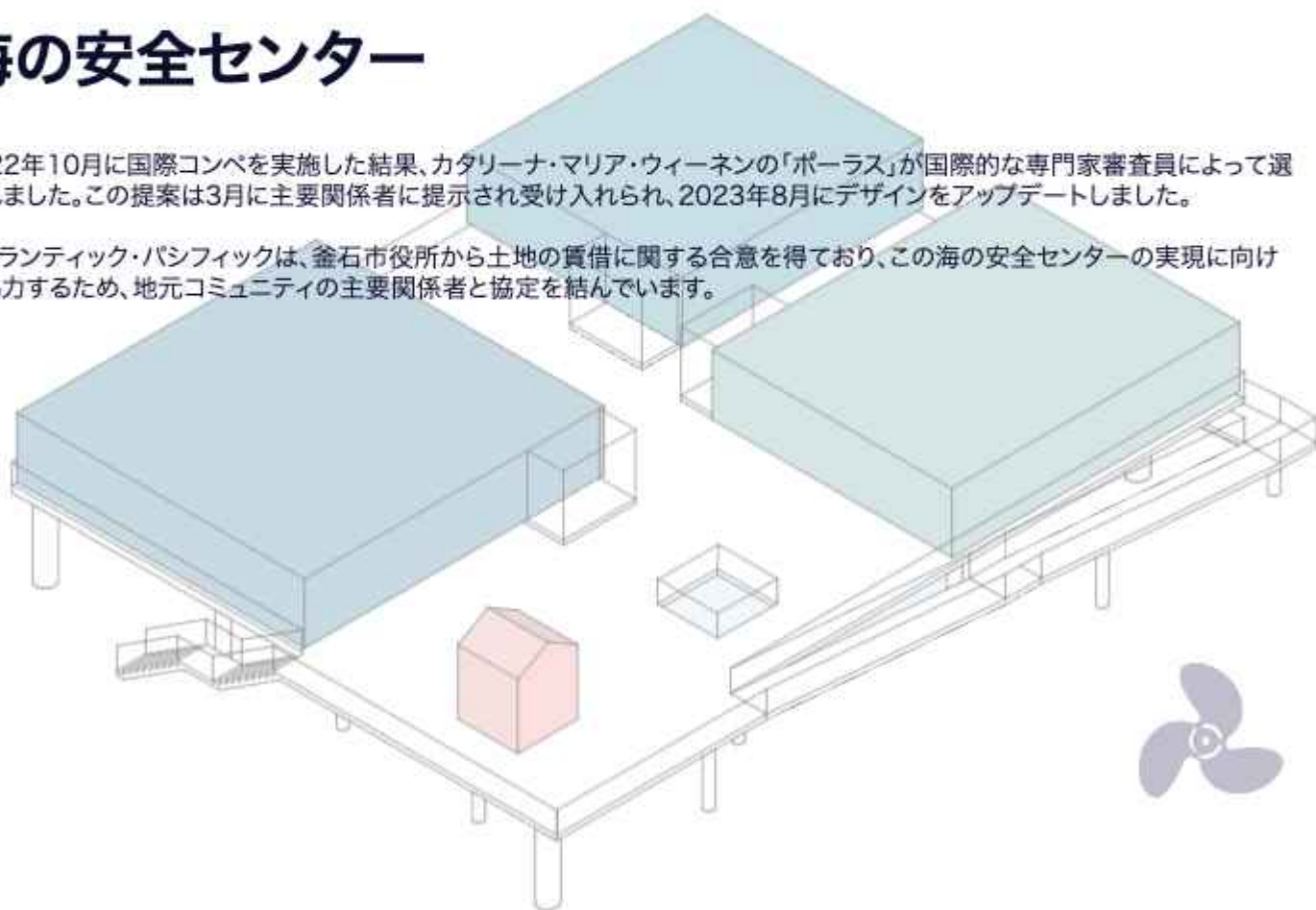
# インパクトレポート



## 海の安全センター

2022年10月に国際コンペを実施した結果、カタリーナ・マリア・ウィーネンの「ポーラス」が国際的な専門家審査員によって選ばれました。この提案は3月に主要関係者に提示され受け入れられ、2023年8月にデザインをアップデートしました。

アトランティック・パシフィックは、釜石市役所から土地の賃借に関する合意を得ており、この海の安全センターの実現に向けて協力するため、地元コミュニティの主要関係者と協定を結んでいます。





# インパクトポート



## 持続可能性:

同センターの持続可能性を確保するため、アトランティック・パシフィック・ジャパンは2023年11月、主要パートナーとなる8校を訪問し、海の安全、海洋意識、ライフセービング、防災についてより深く学ぶため、学生を毎年釜石に招くパートナーシップ協定について話し合いました。

ハロー安比インターナショナルスクール

UWC ISAK、軽井沢

ラグビースクール、東京

横浜インターナショナルスクール、東京

ブリティッシュスクール東京、東京

マルバーンスクール、東京

文京学院大学、東京

文京学院女子高等学校、東京

名古屋インターナショナルスクール(名古屋)

関西大学、大阪



このようなミーティングを経て、各学校はアトランティック・パシフィック・ジャパンが毎年生徒のグループを訪問するオーダーメイドのプログラムを開発することに合意しました。

釜石市では、釜石市教育委員会の小・中学校のカリキュラムと、釜石高校のスーパー・サイエンス・プログラムの一環として、アトランティック・パシフィック・ジャパンが採用されています。



## ACKNOWLEDGEMENTS

**This year's programme** has cemented relationships with our partners in Kamaishi, who have all agreed to support the APJ project in Kamaishi. Letters of support have been signed by the following organisations:

Kamaishi Swimming Association, Sea Bird Kamaishi, Kamaishi Lifesaving Club, Kamaishi Triathlon Association, United Green, Kamaishi Yacht Club, Kamaishi tourism and products Association, Nebama MIND, Beach Academy, Ohakozaki Shimin Kaigi, SanrikuBlue Adventure, Nebama shinkou-kai, and Kamaishi East Fisheries Cooperative

**We have also cemented** and expanded our collaborative partners to include:

**The Houraikan Hotel**, Kamaishi Mayor's Office (Regeneration Department), Kamaishi Mayor's Office (Board of Education) International Coastal Research Centre, UWC Atlantic, UWC ISAK, My Mizu, Kanako Sato Beach Academy, Yuji's Air BnB, Helly Hansen, Kansai University, Bunkyo Gakuin University, Nagoya International School, Karatsu Precious Plastic Project. APJ would like to thank all of our partners for their time, energy and commitment this year for what has been a great programme.

**Special thanks go to the Nippon Foundation** for their generous support, our core partner Nebama MIND for their steadfast energy and encouragement and our amazing APJ team; Kathryn and Chris at Sterling Content, Shota Inoue, Yurie Endo, Jez Booker and Sarah Haberl managed by Lin Nishitani who has brought everyone together to make this project such a success.

